

## 2026年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	金融経済学特別研究	
担当教員名	國方 明	
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係		
DP1	DP2	DP3
○		
科目のテーマ	<p>テーマ：</p> <p>マクロ経済学またはミクロ経済学を金融に応用する。</p> <p>金融にかかわる経済学は、次の①と②の2つに大きく分かれる。</p> <p>① マクロ経済学の応用。英語では Monetary Economics と呼ばれることが多い。</p> <p>② ミクロ経済学の応用。英語では Financial Economics と呼ばれることが多い。</p> <p>本科目では、履修者の関心に基づき、上の①と②のどちらかを学ぶ。</p>	
科目内容・方法	<p>科目内容：</p> <p>まず履修者の関心事を確認して、上の①と②どちらを学ぶかを決める。</p> <p>次に関心事に沿った教科書を読む。①を学ぶ場合、中級以上のマクロ経済学の教科書、または、金融政策の教科書を読む。一方②を学ぶ場合、金融市場や金融機関についての教科書を読む。</p> <p>できれば、教科書に加えて、教科書で紹介されている学術論文も読みたいと考えている。</p>	
到達目標：	<p>この授業が終わったときに、履修者が以下のような知識と能力を身につけることを目標にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 上の①と②それぞれにおける代表的な論点を挙げられる。</li> <li>● 金融分野の標準的な学術研究における問題意識、着眼点、分析手続き、分析結果の解釈の仕方などを他人に適切に説明できる。</li> </ul>	
評価方法及び評価基準：	<p>「授業の方法」で書く(ア)および(イ)への取り組み状況を総合して、100点満点で点数化する。そして60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとする4段階とし、C以上の評価に単位を与える。</p>	
授業の方法：	<p>原則として、対話形式で授業を進める。具体的には次の(ア)と(イ)とを繰り返す。</p> <p>(ア) 履修者が、教科書や学術論文などを要約し報告する。</p> <p>(イ) その報告について、質疑応答と担当教員による補足説明を行う。</p> <p>また担当教員が遠隔地にいるため、遠隔授業を予定している。</p>	